

次の文を読み 1～3 の問いに答えよ。

A さん(80 歳、男性)は、舌癌でターミナル期にあり、嚥下困難のため胃瘻からの経管栄養と癌による疼痛コントロールを行っている。入院していた病院の退院が決まり、A さんは入院前の生活に戻れることを希望している。同居家族は妻と二人暮らしであり、息子は隣町に住んでいる。

1 在宅ターミナル期の緩和ケアで正しいのはどれか。

1. 余命の延長を目標とする。
2. 療養者と家族の QOL 向上を目標とする。
3. がんの治療を目標とする。
4. 関係する職種は限定される。

2 A さんの在宅ターミナルケアの時期はどれか。

1. 準備期
2. 開始期
3. 安定期
4. 終期・臨末期

3 A さんは退院後しばらくは自宅に戻れたことを喜んでしたが、疼痛コントロールがうまくいかないと不安になり、頻回に訪問看護ステーションに連絡してくるようになった。家族も介護に不慣れで疲労がみられるようになった。この時期の A さん及び家族への指導で適切なものはどれか。

1. 息子に同居するように勧める。
2. 妻に身内を亡くした人のサポートグループを紹介する。
3. 訴えを傾聴し主治医と連携する。
4. 妻の介護負担軽減のため、デイサービスを紹介する。

次の文を読み 4～6 の問いに答えよ。

A さん(28 歳、女性)は、小児麻痺後遺症により下肢と体幹に運動障害があり、日中は座位で、移動は座位のまま行っている。排泄介助など生活全般の世話は母親(58 歳)が行っている。父親は県外に単身赴任している。A さんから市役所の福祉課に「傷ができてしまった」と相談があり、担当者が訪問したところ褥瘡が認められたため、訪問看護師が定期訪問することになった。

4 褥瘡の好発部位として最も考えられる部位はどれか。

1. 後頭部
2. 坐骨部
3. 肩甲骨部
4. 肘頭部

5 褥瘡の処置と対策で適切なのはどれか。

1. 感染予防のためにヨードホルムガーゼをあてる。
2. 褥瘡の周辺をマッサージする。
3. 衣服のずれ対応策として、体位変換を行う。
4. 圧迫対策として除圧用具を用いる。

6 母親自身から「最近腰痛が出てきて困っています」との発言があり、訪問看護師に相談があった。この家族への援助で最も優先するのはどれか。

1. 地域の民生委員への相談を勧める。
2. 居宅介護の導入を提案する。
3. 入所施設を探す。
4. 父親に帰宅を勧める。

次の文を読み 7～9 の問いに答えよ。

A さん(62 歳、男性)は、肺癌の治療として半年前に放射線療法を行った。最近、発熱と咳が続き息苦しくなったため受診したところ、体温 38.0℃、呼吸数 20/分、脈拍数 88/分、血圧 122/77mmHg、経皮的酸素飽和度 92%、左呼吸音減弱、喘鳴を認め入院となった。直ちに抗菌薬が投与され、鼻腔カニューレでの酸素投与を 3L/分で開始した。

7 現時点で考えられる疾患は何か。

1. 放射線宿酔
2. 食道炎
3. 皮膚炎
4. 放射線肺臓炎

8 入院時の A さんへの看護師の対応で適切なのはどれか。

1. 積極的に身体を動かすように指導する。
2. 持続的に口腔内の痰を吸引する。
3. ベッド上で座位ができるようにギャッジアップをする。
4. 呼吸回数を増やすよう促す。

9 数日後、病状は改善せず食事もほとんど摂取できなくなった。高カロリー輸液が開始され、酸素投与はリザーバーマスク 5L/分に変更された。その夜、体温 38.8℃、呼吸数 30/分、脈拍 60/分、血圧 82/58mmHg。経皮的酸素飽和度 90%となった。この日の輸液量は、1,800mL、尿量 400mL。血液所見は、白血球 17,800/ μ L、CRP 18.8mg/dL。声をかけると開眼しようとするが、すぐにウトウトしてしまう。A さんのアセスメントで最も適切なものはどれか。

1. 心原性ショック
2. 出血性ショック
3. アナフィラキシーショック
4. 敗血症性ショック

次の文を読み 10～12 の問いに答えよ。

A さん(68 歳、男性)、身長 176cm、体重 50kg。数年前から自宅アパートの階段で息切れを感じていたが、年齢からくるものと思っていた。しかし、最近では平地歩行でも呼吸困難が出現するため不安に思い外来受診した。受診時、体温 37.6℃、脈拍数 102/分、呼吸数 26/分、経皮的酸素飽和度 90%であった。20 歳から 1 日 20～30 本の喫煙歴があり、咳嗽が時々みられたが、気にしていなかった。

10 検査の結果、慢性閉塞性肺疾患(COPD)と診断された。呼吸機能検査(スパイロメータ)の結果として正しいのはどれか。

1. 肺活量・一秒率ともに正常だった。
2. 肺活量は正常だが、一秒率の低下がみられた。
3. 肺活量の低下を認めたが、一秒率は正常だった。
4. 肺活量・一秒率ともに異常だった。

11 入院後、酸素療法と抗生物質による治療が開始された。労作時の呼吸困難が持続する A さんへの呼吸訓練として効果的なのはどれか。

1. 胸式呼吸
2. 短速呼吸
3. ロすぼめ呼吸
4. 奇異呼吸

12 その後、順調に回復し退院鼠控えた A さんに対する日常生活指導内容として適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 水分制限
2. カロリー制限
3. 毎日 30 分のジョギング
4. インフルエンザワクチンの接種
5. 禁煙

次の文を読み 13～15 の問いに答えよ。

A さん(80 歳、女性)は、息子夫婦と暮らしている。1 年前に脳梗塞で倒れ左不全麻痺が残り寝たり起きたりの生活であったが、服薬は自分で管理できていた。12 月初旬に風邪気味で寝込んでいたが、4 日後に症状が悪化して入院した。

入院時、体温 38.0℃、脈拍 105/分 整、呼吸数 30 回/分、血圧 80/64mmHg。名前を呼ぶと開眼するがすぐ眠ってしまう状態である。また、皮膚の乾燥がみられ、朝から排尿がない。検査の結果は、白血球 12,000/mm³、Ht 56%、血清総蛋白 7.0g/dL、CRP 7.2mg/dL、動脈血酸素分圧(PaO₂)50mmHg、動脈血炭酸ガス分圧(PaCO₂)60mmHg であった。胸部 X 線撮影で肺炎と診断された。息子は仕事が忙しく、息子の妻も近所のスーパーマーケットでパートタイムにて働いている。

13 入院時の所見で正しい組み合わせはどれか。

- a. 呼吸不全 b. 脱水 c. 意識レベルⅢ-200 d. 腎炎
1. a、b
 2. a、d
 3. b、c
 4. c、d

14 最も優先度の高い処置として適切なのはどれか。

1. 経鼻胃カテーテルの挿入
2. 酸素投与の開始
3. 導尿
4. 除細動

15 その後、症状の改善がみられ、正月明けにも退院の予定である。しかし、以前に比べ認知面での低下が少しみられ、日付など曖昧なときがある。また、全粥、キザミ食を摂取しているが時々むせみられる。A さんに対する退院時の援助で正しいのはどれか。

1. 口腔ケアの方法について説明をする。
2. 直ちにデイサービスの利用をしてもらうように勧める。
3. 服薬管理については、今まで通り本人にしてもらうようにする。
4. 餅は柔らかくして食べることを勧める。

次の文を読み 16～17 の問いに答えよ。

A くん(5 歳、男児)は、出生時に口唇口蓋裂と診断され、今回、口蓋裂の手術のために小児病棟に入院した。3 週間前に外来で医師と看護師が A くん入院と手術について説明した。A くんは心細げに母親と手をつないで病棟に来た。体温 36.5℃、脈拍数 82/分、血圧 96/52mmHg。家族は両親および 2 歳の妹である。両親は妹の世話や仕事の都合で帰宅しなければならず、A 君にとって初めての 1 人入院となる。

16 A くんに対する術前のオリエンテーションについて適切なのはどれか。

1. 手術時に使用するフェイスマスクを口にあて、実際に使用する麻酔薬の吸入を体験させた。
2. 経鼻胃管や点滴をしている人形で手術後の様子を見せた。
3. 手術前は水なら飲んでもよいと説明した。
4. 手術後にもし痛みや血が出たら家に帰れないと説明した。

17 手術後 7 日目。合併症などもなく順調に経過し、予定通り退院することになった。次の外来受診までの指導として、適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 硬いものや刺激のある食べ物は避けるように説明した。
2. 食後は歯磨きよりも白湯やお茶を飲水するように説明した。
3. フォークや箸の使用を控えるように説明した。
4. 38.0℃以上の発熱がみられても、術後の吸収熱なので心配ないと説明した。
5. 1 週間以内に言語訓練を受けるように説明した。

次の文を読み 18 の問いに答えよ。

A さん(36 歳、初産婦)は、妊娠 40 週 5 日 21 児、陣痛発来により入院した。入院時、子宮口閉鎖、胎児心音 138bpm、未破水、体温 36.8℃、脈拍 76/分、血圧 128/70mmHg、陣痛発作 10～20 秒、陣痛間欠は 8～9 分であった。翌日 6 時、子宮口開大 5cm、疲労がみられ、陣痛は弱くなってきたものの、定期的に発来していた。14 児、子宮口全開大にて分娩室に入室し、14 児 15 分、4,020g の女児を娩出、14 時 50 分、胎盤を娩出した。

18 今後、予測される状態はどれか。

1. 産褥熱
2. 膀胱炎
3. 妊娠高血圧症候群
4. 子宮弛緩症

次の文を読み 19～21 の問いに答えよ。

A さん(17 歳、高校生)は、普段は 28～35 日周期で月経があるが、最近 4 か月ないため婦人科を受診した。ダイエット願望があり、現在、3 か月前の体重 60kg より 20kg 減少している。時々立ちくらみがあると言う。初経は 10 歳。身長 160cm。

19 受診時に必要な情報として優先順位の低いものはどれか。

1. 最終月経
2. 性交症の有無
3. 血液型
4. 既往歴

20 月経のアセスメントとして正しいのはどれか。

1. 原発性無月経
2. 続発性無月経
3. 早発月経
4. 遅発月経

21 保健指導の内容として正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 規則正しい食生活を送る。
2. 次の月経まで性交渉を禁止する。
3. 学校を休んで安静にする。
4. 起床時、ベッドから起き上がる前に基礎体温を測定する。
5. 運動はなるべく避ける。

次の文を読み 22～24 の問いに答えよ。

A さん(36 歳、初産婦)は、妊娠 40 週 1 日に正常分娩にて 2,850g の女児を出生した。アプガースコアは 1 分後 9 点、5 分後 10 点。分娩所要時間は 14 時間 30 分、分娩時出血量は 450mL であった。分娩直後の子宮底の高さは臍下 3 横指、子宮硬度は良好、バイタルサインは体温 37.3℃、脈拍 78/分、血圧 124/64mmHg であった。

22 分娩開始から分娩直後までの母子のアセスメントとして正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 過期産である。
2. 軽度新生児仮死がある。
3. 平均分娩所要時間である。
4. 分娩時出血量は、正常範囲内である。
5. 褥婦は感染が疑われる。

23 生後 3 日目。体重 2,700g、バイタルサインは体温 37.1℃、心拍数 132/分、呼吸数 50/分、黄緑色の排便あり。大きな物音がしたときに両上肢を開き、抱きつくような動作をした。新生児のアセスメントとして正しいのはどれか。

1. 生理的体重減少の範囲内である。
2. 胎便である。
3. 微熱がある。
4. 把握反射がある。

24 産褥 4 日目。産褥 1 日目より母児同室を開始している。授乳は完全母乳である。A さんは「母乳がどれくらい出ているか分からないので、不足していないか心配です」と言っている。A さんの授乳に関する退院指導として正しいのはどれか。

1. 「1 日 1 回は搾乳をして、母乳量を確認してください」
2. 「毎日、沐浴前に裸の状態赤ちゃんの体重を測ってください」
3. 「3～4 時間間隔で赤ちゃんが泣くときは、ミルクを足してください」
4. 「赤ちゃんのおしっこの回数、量が目安になります」

次の文を読み 25～27 の問いに答えよ。

A さん(40 歳、男性)は、今春の転勤がきっかけで気分が沈みはじめ、1 週間前からは食事もとれない状態となった。本日、妻の同伴で精神科病院の外来を受診した。前回は躁状態で入院している。診察した精神保健指定医は、双極性感情障害(躁うつ病)で入院治療の必要があると診断し勧めたが、本人の了解が得られない状態のため、妻の同意による入院となった。

25 この場合の精神保健福祉法における入院形態はどれか。

1. 同意入院
2. 指定入院
3. 応急入院
4. 医療保護入院

26 選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)が処方された。正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 若年層には積極的に使用されている。
2. 吐き気を止める作用を有している。
3. 抗コリン性副作用(口渇、便秘、かすみ目、排尿障害)が少ない。
4. 抗不安作用はほとんどないことが特徴である。
5. 2 週間程度で薬の効果は現れる。

27 A さんが受診した翌日、会社の上司から病院に「家族から受診したことを聞いたので、今後の勤務体制を考えるため、病状を教えてください」という電話があった。電話を受けた看護師の対応で適切なのはどれか。

1. 病気を理解できるように丁寧に状態を伝えた。
2. 質問には一切答えられないと伝えた。
3. 家族に直接尋ねるように伝えた。
4. 担当医の許可を得ないと話せないと伝えた。

次の文を読み 28～30 の問いに答えよ。

A さん(52 歳、女性)は、2 人に子どもがおり、現在は夫と二人で暮らしている。ある日、震度 6 強の地震が発生し、自宅が全壊した。A さんはこの時、柱に左下肢を挟まれてしまった。脱出が困難となり約 8 時間後にレスキュー隊員によって救出された。

28 救出後に最も気をつけなければならない疾患はどれか。

1. 挫滅症候群(クラッシュシンドローム)
2. 肺塞栓症
3. PTSD(心的外傷後ストレス障害)
4. 悪性症候群

29 A さんは被災病院に搬送され、トリアージされた。判定時の A さんの状態は、意識清明で受け答えもはっきりできる状態であったが、左下肢は麻痺していた。トリアージの判定結果はどれか。

1. 赤
2. 黄
3. 緑
4. 黒

30 A さんは DMAT(災害派遣医療チーム)によって広域搬送されることになった。DMAT について正しいのはどれか。

1. DMAT は自然災害時に限って活動する。
2. DMAT の構成員になれるのは医師と看護師である。
3. DMAT は災害発生後 48 時間以内に活動を開始することができる医療チームである。
4. 災害時に、災害拠点病院の所属する医師であればだれでもチームの構成員になれる。